

第3回香南市総合教育会議 議事録

1. 開催日時 平成28年2月16日(火) 午前9時～10時45分
2. 開催場所 夜須中央公民館 2階 大研修室
3. 議題
 - (1) 岸本小学校の今後について
 - (2) 香南市教育振興基本計画の中間見直しについて
 - (3) その他
4. 出席委員

教育委員長	清藤	好弘
教育委員	長崎	健二
教育委員	山本	眞二
教育委員	大谷	美保
教育長	安岡	多實男
香南市長	清藤	真司
5. 説明のため出席した者の職氏名

副市長	野中	明和
教育次長	田内	基久
学校教育課長	入野	博
生涯学習課長	近森	孝章
こども課長	長野	恵子
企画財政課長	田内	修二
学校教育課参事兼指導監	関田	昭博
学校教育課課長補佐	吉岡	園枝
6. 事務局職員の職氏名

総務課長	小松	謙介
------	----	----
7. 傍聴者 6名
8. 議事の経過の概要 次のとおり

○小松総務課長

おはようございます。山本委員さんがちょっと時間を間違われていたようで、今、野市からこちらに向かわれておるようでございます。

定刻を過ぎましたので、第3回総合教育会議を開会いたします。

それではまず開会に当たりまして、清藤市長より開会の挨拶を申し上げます。

○清藤市長

皆さん、おはようございます。第3回香南市総合教育会議を開催したいと思います。

日頃は、教育委員の皆さんには香南市教育行政にご協力いただき、またご尽力いただきまして、感謝、御礼を申し上げたいと思います。

さて、年度末にもなってきました。色んなことで色々と事務的なことも忙しくなっていました。本日の総合教育会議の議題はお手元の資料にもありますように、「岸本小学校の今後について」と、「香南市教育振興基本計画の中間見直しについて」でございます。

活発な議論・協議をする中で、より良い香南市の教育環境を作っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○小松総務課長

それでは早速議事の方に移らせていただきます。

まず、「岸本小学校の今後について」でございますが、これにつきましては教育長より概要の説明をお願いいたします。

○安岡教育長

岸本小学校の今後につきまして、教育委員会から市長に「提言」という形でさせていただきました。未来に向かって生きる子ども達のためという副題のもとに、教育委員会として提言をまとめさせていただきました。それでは、もう読んでおられると思いますが、なお確認のために一度簡単に内容の概要をご説明したいと思います。

提言につきましては、大きく6項目からなっております。別冊としてそれを補う資料編がございます。その6項目で、最初の項目「はじめに」とありますが、これは教育をめぐる社会情勢の中から東日本大震災の教訓、そして少子高齢化の進展と地方創生、また国際化の中で子ども達につけるべき力、この3点について、「はじめに」のところで述べさせていただいております。

2項目が「岸本小学校の状況について」3点ふれております。

まず1点、岸本小学校の歴史につきまして、在籍生徒数の推移であったり、取り組んできた教育に関する研究開発実績、あるいはスポーツに関する輝かしい活躍と受賞した功績、特認校指定と複式学級の開始、岸本地区が生み育ててきたと言いましょいか、岸本地区が生んできた偉人等々のことが書いてございます。

2点目も岸本小学校の最近の取り組みといたしましては、小規模校、複式学級におけます「知・徳・体」の育成についての実践、あるいは防災教育、そして地域と学校の協働等についての成果と課題を述べております。

3点目に今後の児童数の見通しを書いてございます。

3項目目といたしまして、この1年間に実施をしてまいりました説明会あるいは合同協議、あるいは合同学習会についてその経過を述べてございます。

4項目目にはその説明会や合同会議で出されました主な意見としてまとめて書いてございますが、詳しくは資料編の方を見ていただきますと、全て詳しく載せてございます。

5項目目に、以上のような内容を教育委員会で検討した結果について、教育委員会の見解とその理由を書いてございます。ここはちょっと読んでみたいと思います。9ページをご覧くださいと思います。

まず結論からですけれども、「岸本小学校は香我美小学校と統合するべきである」というのが教育委員会の結論です。

その理由は、学校は子どもの命を預かっている施設であり、その保護を最優先しなければならないことから、発生が確実視されている南海トラフ巨大地震に備えるための安全策を講じることは教育委員会の責務である。どこにいても危険だという意見もあったが、岸本小学校と香我美小学校では、地震・津波に対する安全性に大きな差があるのは誰もが認識している。液状化の可能性を説明した時には、「岸本小学校にいては助からないということか」と問われたが、安政の大地震の状況から書き始めた岸本郷の河村家に残る大変記には、液状化現象が明記されているし、高知大学の岡村眞特任教授を招いての合同学習会でも、雨の多い時期、地下水が上がっているときに地震が起これば可能性が高いと指摘されています。岡村教授は地震地質学者で高知県の防災アドバイザーであり、岸本小学校の防災教育にも深く関わっていただいている。

次に岸本小学校は少人数ならではの優れた実践を行うべく、懸命の工夫と努力をしているが、来年度からは複式学級が2学級となり、ここ数年のうちに完全複式の学校になることは避けられない。急速な社会変化が進む現在、子ども自らが課題を見つけ、より良く解決するための思考力・判断力・表現力を身につけることと、自他の個性を認め合うとともに自尊感情を高めていく力が求められている。そのためにも子どもの社会性を伸ばし、その持てる能力を最大限に引き出す中で、子どもの可能性を高め、未来に生きる力を育てることは学校・家庭・地域にとって重要な責務である。

以上の観点から、香南市教育委員会では、学校という組織には一定人数以上の児童集団と指導する教職員が必要であると考え、あまりにも少ない集団では自分の優れた特性に気付かなかつたり、自信が持てなかつたりすることが懸念される。

また、学校あつての地域、地域あつての学校のはずだという意見もいただいた。確かにそのとおりであるし、香南市教育振興基本計画でも保幼小中・家庭・地域の連携を重要な柱に据えている。しかし、集落ごとに学校があるわけではなく、学校にとっては校区全てが地域である。これまでの岸本小学校への地域の方々の協力は、統合後も子ども達の健やかな成長のために継続していただけるものと期待をしている。

文部科学省が適正規模にむけての校区再編・統合について手引書で、保護者や地域の意見も十分に聴き、丁寧な論議が大切であると示している。説明会において保護者や地域の方々からご意見やご質問をたくさんいただいた。その想いは真摯に受け止めた上でである。文部科学省の手引書には地震・津波による命の危険性は考慮されてい

ないが、市教委としては命を最優先すべきだと判断した。また、同手引書にはおおむね複式学級が存在する学校規模では、学校全体の児童数や指導方法にもよるが、一般に教育上の課題が極めて大きいため、学校統合等により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要があると示されている。地域が寂れる心配が反対の中心的な意見であるが、これは教育委員会だけでは応えられない。地方創生とも関わって、地域の核としての学校の存在もその意義と重要性が唱えられている。しかし、教育環境や命を守ることを考えれば統合はやむを得ず、岸本地区の活性化については全庁的に考えて行くべきである。説明・協議の中で、統合に向けてスクールバス等の多くの要望も出された。こうした要望については、統合の最終的な決定がされてから、保護者等々と一つひとつ話し合っただけで決めていくことが最善であると考えたという理由を書かせていただいております。

最後に「おわりに」という項目では、教育委員会の思いを述べさせていただきます。そこも少し読ませていただきたいと思います。

「おわりに」のところでは、学校の存在は立地している地域の住民にとって心理的にも物理的にも、また地域社会の運営的にも大きな意味を持っており、学校がなくなることへの住民の不安とやるせなさをひしひしと感じている。「学校は誰のものか」と問われると、住民全てのものであり答えざるを得ない。しかし、究極的に考えれば、学校は子どものものである。子どもをより良く育てるために設けられたものが学校である。あわせて地域住民が学校に協力することを通じて、必然的に住民同士の絆が生まれるとともに、子どもの育ちに関わることを共有することが高齢者も含めた生きがいにもつながっていく。

香南市教育委員会は、東日本大震災における石巻市立大川小学校の悲劇を二度と繰り返してはならないと決意しているし、釜石の奇跡と賞賛されている防災教育について、釜石市の教育長が言った「多くの命を救ったと称えられているが、3人の子どもが犠牲になった。そのことが悔しい」という子どもの命を思う姿勢を決して忘れてはならないと思っている。

また、未来を生き抜き、未来を託す子ども達の教育内容や教育環境、条件整備は最善を尽くしていくことが責務であると捉えている。説明会や協議を通して反対の意見を述べていただいた皆様にも、統合に向けての条件整備等の話し合いを通して、理解していただけるよう努力していく所存です。

以上が提言を簡単に振り返りますと、そのようになります。色々ご質問をお願いします。

○小松総務課長

ありがとうございました。

岸本小学校の今後につきまして、教育委員会の考え方についてご説明をいただきました。それでは、これにつきましての意見交換に入りたいと思いますけれども、まず市長の方から質問等ございましたらお願いします。

○清藤市長

先程教育長から岸本小学校の今後ということで提言書の要旨をお話いただきました。せっかくの機会でございますので、各委員さんにも意見など色々であろうかと思しますので、ぜひ意見を出していただきたいと思ひます。

ちょっとその前にいくつか確認をさせていただきたいと思ひます。ちょっと質問させていただきたいと思ひます、何点か。8点くらいあるんですけど。まず最初に3ページの10行目くらいにあります、平成13年以来複式学級が始まったと。これはその後ずっと複式学級なんですか。

○安岡教育長

そうじゃない時もあったんじゃないかな。ちょっとまた確認しておきます。

○清藤市長

それと5ページですが、2行目から指定事業等をやった中での課題等と言いますか、出ておりますが、2行目から10行目ほど。少人数の場合に、多人数を前に自己表現をすることが苦手な児童が多く、積極的に自己開示する力が弱いと感じる。あるいは今の校長先生が道徳教育の研究を通して「児童は『最後には先生を教えてくれる』、あるいは『先生はどの答えを求めているのだろうか』という受け身の現実を知った」と。「自ら学び、自らの疑問・課題を解明克服していくというこれから求められる学びの姿を教師が意識して授業に臨む必要性をこの指定研究で思い知らされた」という。その下には少人数云々があり、校長の機関誌の一文にもあるんですけど、これは岸本小学校の教員の方々は、やっぱり皆さん同じ意見なんですかね。

○安岡教育長

校長がこうしてまとめるということは、職員会等でそういう協議をした上でのことだろうし、また現在うちの教育委員会の事務局の方に研究生も来ておりますが、岸本小学校で長年勤務した者がおります。そうした話もここには載せてございませぬけれども、同じような感想を持っておりました。

○清藤市長

岸本小学校の今後の見通しですけど、今児童数は合計47名。これが3年経って、資料の4ページを見ているんですけど、資料4ページの上の人数で言ったら、10人くらい減るわけですね、3年後くらいは。

○安岡教育長

減ってると思ひます。資料の方に載っていると思ひます。

○長崎教育委員

資料は、左が現在の学校の学年別の人数、右は5歳児から0歳ですので、住基での人数です。若干入学時には変更があるかも知れませんが。

○清藤市長

じゃあ若干変更があるかもしれんけど、大体これぐらいということですか。

○長崎教育委員

そうですね。

○清藤市長

それと、小規模特認校制度で、最近10年間で12名の方が入学・転入したと。平成24年以降はないですか。要は、東日本大震災があつて、それ以前と以降とで数字が変わったかどうかということです。

○安岡教育長

3ページにございます。平成20年、21年は0名でしたけれども、1名若しくは多い時でも3名くらいであったと思います。

○清藤市長

分かりました。

それと、昨年から何回かずと住民説明会を開催されており、お疲れ様でした。

7ページの説明会・協議における主な意見の中で、今の岸本小のPTAの総会等へ何回か出て、そのご意見というのはあるんですけど、今の香我美おれんじ保育所・香我美幼稚園の園児の親御さん等々のご意見というのはどうでしょうか。

○安岡教育長

役員会等でお話をした時には、特にご意見はありませんでした。

そして、園長先生から、保護者が迎えに行ったり、送って来たりしますので、その時に聞いていただいた話では、反対の意見はないと言うよりも、かえって積極的に香我美小学校の方が安心できるというご意見の方が多いということは聞いております。

ただ、合同協議等では保護者の方も呼びかけをしてございますので、どの方が保護者かということは明確には分かりません。

○清藤市長

保育園と幼稚園の保護者で会をやって、その中で岸本地区の子どもの保護者かどうかは分からないということですか。

○安岡教育長

いや、そうではなくて。合同協議会の時には、岸本地区の保育園、幼稚園の保護者にも保育園・幼稚園を通してご案内をさせていただきました。受付名簿は、保護者の名前だけですので、どの程度参加されて、どの方が小学校で、どの方が保育園、幼稚園という形はちょっとようつかんでおりません。

○清藤市長

それと8ページにあります、色々説明会・協議会における反対者の主な意見の中でちょっと意味がよくつかめないところがあります。

丸が4つあって、3つ目で「スクールバスの通学では子どもと地域のつながりが薄くなるが、それで地域を愛する子どもを育てることができるのか」という。これはスクールバスでの通学やったら地域との繋がりが薄い、スクールバスやなかったら濃いということ、これはどういう意味ですか。

○長崎教育委員

今でしたら岸本小学校に歩いて行っていますので、地域の方がよく「おはよう」とか「お帰り」だとか声をかけて見守ってくれようということです。スクールバスで行ったらそういうのがなくなる。

○清藤市長

バスですって行ってということですか。

次に、「学校には子どもは8時間しかいない。多くの時間は家庭や地域にいますので、統合しても安全とは言えない」というのは、これは。

○安岡教育長

これは1日24時間あるので、そのうち学校があるのが8時間だと。あとの3分の2は家庭とか地域におるがやないかと。だから8時間だけ安全な所に行っても、子ども達が安全だとは言いきれないというご意見です。

○清藤市長

親にとってみたら夜とか子どもと一緒にいる時間よりも、子どもと一緒にいない、子どもが自分と離れた時に、その時の危険性を一番心配しますね、そりゃあ。

○安岡教育長

説明会の中で、この意見は何度も出ました。何回も説明はした上です。

つまり8時間とはいえ、やはり安全な所で勉強しておれば、保護者の方も安心して働けるし、そして何よりもいざその時には保護者の方も自分の命を守るために逃げることができる。子どものことが心配でも家に帰ることはできない。子どもは安全な所におるからということで、自分自身の命を守ることもできる。

それから、香我美小学校と保育・幼稚園は隣接しております。岸本小学校と保育園・幼稚園は離れて別々にある。いざその時にその間ずっと離ればなれになっているよりも、安全・安心な所で、同じ場所に子ども達がおれば、保護者の方も連絡が取りやすくなるし、安心できるのではないかとといった形をずっと説明してきました。

○長崎委員

賛成者の意見の最後に、今教育長が言ったようなご意見があります。

○清藤市長

保護者心理としてはそうですよね。分かりました。他に委員さんの方でご意見がありましたらお願いします。

○山本委員

先程からずっと出ておりますことですが、中には子どもの安全だけを取り出して考えるのは反対だというような意見もあったり、先程も出ておりましたように、親御さんの近くにいることが安全だというような意見もありました。

地域にはそのようなご意見もあるようですけれども、やはり教育委員会としての見解は提言書のとおりです。我々としては、子ども達が直接津波の心配がない所にいる時間帯が長いだけ、特に親は昼間子どもを置いて働きに行きますのでそういう時間帯を、安心をして働ける、それが非常に大きいということです。

それから、子どもの安全のために慌てて帰らなければならない。そんな状況が、通学年令にあるお子さんを抱えている親御さんは常にそういう心配がある。ということも、全体として、今は、このように進んでいく方が本当に、幸せのために一番良いと考えております。

○長崎委員

この提言にもありますように、そして先程教育長の方からも説明がありましたように、説明会や合同協議で色々意見はありましたけど、意見の主な相違点につきましては、基本的な考え方の軸足を「子ども達の教育と安全に置くのか」、「地域の活性化に置くのか」ということで、賛成・反対の意見に分かれていたというように感じております。どちらの意見も、一方を考えていかないというわけではありませんが、よりどちらに軸足を置いていくかということだというように思います。

学校の統合と町の活性化は、基本的には別々に考えていくものではないかというように思っております。確かに学校あつての地域、地域あつての学校とのご意見もいただいておりますが、先程教育長の方からの説明にもありましたように、学校にとっては校区が全て地域でありますので、統合すると香我美小学校区が地域となるわけですので、地域の学校ということで、他の地区と同様、今まで以上に子ども達の健やかな成長のためにご支援・ご協力をお願いしたいというふうに思っております。

ご意見にもありましたように、学校に子ども達がいるのは8時間でありまして、土日夜間を含め多くの時間を家庭や地域にいるわけですので、家庭や地域の力が大切になってくるんじゃないかと思っております。また、防災対策面においても同じことが言えるのではないかと思っております。

教育委員会としては、子ども達の安全面や教育環境等のためには最善を尽くすという立場で提言をしておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。提言をしたからこれで終わりということではなくて、当然説明会や協議会で出された質問やご意見については真摯に受け止めて、教育委員会できり組むべきことはきり組まなくてはならないというふうに思ひますし、また学校統合に向けての検討委員会等での決定については、広報等でQ&Aなどで周知するようにしていかなければならないというよう

に思っております。

以上です。

○小松総務課長

分かりました。委員の方は他に何かございますか。

○清藤教育委員長

話をする中で出てきたのが、子どもばかりの安全をと言うて、地域に残っている高齢者とかはそのままでいいのかというような極端な意見も出てきました。

実を言うと、何年か前に香我美幼稚園に行きゆう保護者から、ぜひ子どもは香我美小学校へ行かせてもらいたい、何とかならんかというような話も出てきました。現状やったら住所を変えるしかないよっていう返事をしておりますが、今までに二人ぐらい私の方に相談に来てくれた人がおりました。せつかく幼稚園で仲良くなっちゅうに、小学校で分かれんといかんかやというような、そのような相談も今までにあっております。

それと、会の中で、香我美小学校を特認校にして、子どもがどっちでも選択できるようにしたらというような意見も出てまいりましたが、私達はそれはできないというようなことで、そんなような話も出ております。

それと、委員会は3年先ということやけど、今からでもやってもろうたらえいというような話も聞いております。その中で来年からじゃなしに、今度の新1年生からでもというような話も一部出てきておりました。

○大谷委員

岸本小学校の問題にずっと皆さんと一緒に関わってきたんですけども、私はどっちかって言うと命を守りたいっていうその想いで賛成をしてきました。

複式学級の話が出ていないので、私は、少しその事について発言させていただきます。私は、デメリットばかりとは思っていません。委員さん方もみんな両方あると思っています。

少人数だったらすごく目が行き届いて良いなあと、私は個人的にはお母さんでいる時はずっと思っていたんですが。実は去年と今年だったかな、学校訪問で実際に複式学級のクラスを見る機会に恵まれました。先生はすごく良くやっておられて、力のある先生だったし、私もよく存じ上げている力のある先生なんですけど、正直やっぱり本当に大変だなという印象を受けました。全部岸本だったわけじゃないんですけど、1つは岸本小学校、もう一つは別の小学校で。

その時に、そのうちの1つのクラスで国語をやっていたんですが、やっぱり1つの学年に話し合いをさせていて、もう1つの学年に本読みをさせていてということがありました。話し合いがどんどん進んでいって、さらにさらにといいところで、仮に本読みが終わったとすると、子ども達はもっと話し合いたい、そして先生もそれをもっと話し合わせて、それを引き出して何かしたいという時に、やっぱりそこで中断してしまうんですね。隣の学年がざわざわしだすので、どうしても。

やっぱりそういうのを見た時に、1つのことをぐっと話し合うとか、1つのことをやり込む、友達と一緒にやり込む、そして先生を巻き込んでやり込むということが途中で途切れるのってすごく不利だなって感じました。やっぱりできればやり込みたい時はやり込める環境がいつもあるっていうのは、子ども達にとって、とても重要なことではないかなというのを実際に訪問してみて感じました。

今、世の中に出た時に「他者を認める」とか「人の意見を聴く」、そして実際に「自分の意見を発していく」、違う意見があった時も感情的になるのではなく、人の意見も聴きながら自分の意見も発信し、お互いを尊重しながら接点を見つけていくっていう、そういうことを世の中にすごく求められていますよね。その訓練っていうのが小学校1年生の、6歳の段階から始まると思うんですけども、15歳になるまでの義務教育として私達行政が提供していく授業というものが、どの保護者にとってもすごく大事なことじゃないかなってすごく感じたんですね。

複式学級が絶対いけない、あるいは、デメリットばかりとは思っていなかったんですけども、やっぱり実際にそういう授業を見ると、1つ、学年とかクラスで何かこうやり込むっていう、そういう経験はやっぱり多い方がいいんじゃないかなというようにことを思いました。複式学級については、とっても保護者目線なんですけれども、そういうふうに感じました。

岸本小学校に関しても、私はやっぱり色々な意見をいただき、最初は反対の意見ばかりを聞いていたので、自分が足を運んで、実際に賛成しているお母さん、お父さんの意見を聞いた時には「ああ、賛成者もいたのか」と思ってすごくほっとしました。あんまり反対やったら、これはもうやめるしかないのかなと思っていました。私も行政に関わったことがないし、もう「普通のお母さんできていたのが、こんなことに巻き込まれて」じゃないですけど、本当になんかそんな想いでおりました。立て看板で「教育委員会横暴」とかって書かれているのを見た時にはすごくもう心が痛くって、そんな悪いことをしゆうがやろうかって思うぐらいすごく悲しかったんですけど、実際に反対の意見じゃなくて、結構賛成の意見があるということが心強かったです。

やっぱり反対している人達の中には、「あそこもここも危険じゃ」という意見がありました。確かにそうだと思います。私は、岸本小学校の子ども達が香我美小学校に行ったら100%安心・安全で、命を完璧に守れるとは思っていないんですね。やっぱり危険だっていう、地震が起こるっていう確率っていうのはどこにいてもあるので。ただ、より安全より安心ということを考えて時には、やっぱり沿岸ですぐ津波がくる所よりはできるだけ離れた、そして行政としては、より安心、より安全に教育を施すというのは大前提ではないかなと思っております。やっぱり全ての子ども達に安心して授業を受けてもらうっていうのは、子どもにとっても必要な教育だろうし。

「委員会は津波のことばかり。地震は起こるんだし、地震の方を心配しているんだ。津波は時間を与えてくれる」という意見があったんですけども、私はそういう悠長なことを言っていて良いのかなという気持ちがすごくその時にありました。どんなに訓練していても、実際に地震が起こったらやっぱり訓練どおりにはいかないだろうし、パニックになるだろうし、ましてや子ども達は小さいので、本当に全部自分で判断しなさいっていうのがなかなかそうはいかない。低学年の子もいます。そして

中には、体の不自由な子もいるだろうし、色んな状況を持った子ども達もいます。津波は時間を与えてくれるなんて悠長なことを言っている場合じゃなくて、そういう子ども達を本当に守っていかなければならないんですね。色んな物が崩れた下とかを。避難訓練はやっぱり平らな所を移動して行くので、それなりの時間を確保できたり短縮できたりするんでしょうけれども、実際になったらどうかなっていうそういう心配もあります。

やっぱり子ども達の何に軸を置くかって言うと、委員会としては子ども達の命を守る、そのことを軸に置いて色んなことを考えていく。本当に、地元の人達が学校がなくなって寂しくなるっていう気持ちはすごくよく分かります。特にお年寄りが多い町なんで、子ども達の声が聞こえなくなるのは寂しいだろうし、なんとも言えないやるせない気持ちになるんだろうと思うんですけれども。やっぱりまずは子ども達の安全なそういう活動を考えてもらいたいし、まちづくりっていうことに関しては、行政が中心となってやっていってもらわないといけないことだし。

たった8時間って言うけど、その8時間をどう安全に過ごすかっていうのが私達も選択していかなければならないコンセプトだと思うんですね。子ども達は8時間おったら土日とか長い夏休みとかは地元に戻って、おうちに帰る。そこで子ども達と触れ合う。夏休みなんかは特に実際に親御さんが働きに出て、一人で過ごさんといかんような子もおりますので、そういう子ども達に関わっていただいて、地元を活性化していく方法もあると思います。だから、やっぱり全ての子ども達に安心安全な教育を提供していく、そこにしっかりと軸を置いていきたいと思います。

○清藤市長

この会が始まって委員の皆さんから色んなご意見もあったし、去年の4月からのPTAや地域の皆さんとの説明会等様々な意見があったと思います。

軸足という話も出ておりましたけれども、人というのはそれぞれの立場で考え方も違うところがございますし、どれがどうということでもないと思います。そんな中でどう言いますか、こういう総合教育会議を始めるにあたっての、自身も教育の専門家ではありませんが、子どものことを色々考えて、学校も含めて考えた時に何を主に置くかということは、それが子どもにとってプラスなのかどうなのか、より良い教育環境も安全もひっくるめて全て子どもにとってより良いことなのかということをつくり考えなければならぬ。自分は市長として考えなければいけないと。そんなに思っています。

行政の中でこんなことがありましてね。例えば、香南市は合併しましたよね、平成18年に。その時に合併に賛成か反対か、これは色んな意見があって、自分は当時町長やったけど、もう色んなことを考えんといかん。結構孤独なんです。近隣の市長と色々話をしたり、そんなことが結構参考になったりするんですけれど。

例えば合併をせんかったら水道料金が上がる。合併をしたら上がらん。だから合併賛成ですよという人がおったとしたら、この意見は間違いか正しいか。これは間違いじゃないんです。その人はその意見だし、その人はそれで。色んな考えもあると思うんです。

ただ本当に学校統合とかいうことになると、やっぱりどこの自治体でも本当に色々大変なことで、特に岸本は、この提言書を見て、自分はあまり歴史を知らなかったんですけど、かつては330人ぐらい子どもさんがおったということですし、他の香我美町の地区が統合になったけど、岸本はずっとそのままということもあるし。

一昨年は運動会に自分も行ったんですけど、生徒と地元の人と一緒にあって、それが何の違和感もなく自然と一緒にあってやっておりました。それも見て、これから地域の地元の人でこういう話が出た時に反対が起こらんこと自体がおかしい。反対が起こってこれは当然のことです。

ただ、軸足という話もありますし、地域の活性化にとって学校は不可欠なものではあるけれども、子どもにとってプラスかどうかを行政として一番に考えなければならぬというふうに自分は思います。

大谷さんと一緒に、自分もどっちかと言うと保護者目線です。中2の娘もいますので。上は二十歳の息子なんで、これから地震があつてどうこうしたら息子に守ってもらわんといかんくらいに思っておりますけれども。ただやっぱり、保護者というのは子どもが自分といない時が一番不安なので、自分といない時にその子どもがどういう環境にいるかということは、非常に大きいことなんじゃないかというふうに思います。自分もやっぱり考えますもん。自分とおらん時に今どこにおいて、地震がきたらどうなるんだろうなということを、やっぱり。これは、やっぱりすごく大きいことなんじゃないかなと思います。

それと、先程質問で最初に言った5ページがこれがすごく気になるんですけども、5ページへ。

さっきもちょっと複式学級の話が出ましたけれども、教育のレベルとかということではないと私も思うんですけども、かつてこんなことがございました。高知県で「創知の森」という構想がありまして、創造の創るの「創」で、これに知力の「知」で「創知の森」ですけど。芸西の和食村、和食ダムの近隣にダムを工事することと一緒に、そこに高齢者の木造平屋建ての住宅とその横に学校、この学校はイギリスのように寄宿舎学校で、言うなればウィークデイは学校で、週末は家に帰る。高知県でもいろんな小規模校と言うか、複式学級をやっているそんな学校を、言葉で言えば統合になるわけですけども。その時に学力を育てと、少ない人数の中で、学び舎でおった時と、1学年例えば30人、50人の子どもの中でおった時とやっぱり違うんですね。そういう構想があつたんですけども。ちょっとそれはある用地を民間事業者が購入してそんなこともあつたりして。高知大学の岡村学長は、香南市民ですよ、今。香南市在住ですが、岡村先生が唱えて高知県が研究して、それと自治体である夜須町と芸西村と一緒に研究したことがあつたんですけど。それは複式学級の是非というのがありますよ。学力もそう、それから30人、50人の仲間というか同学年の子どもといる場合と、そういった子どもがいない場合と、これが果たして将来というようなこともございまして、自分も何だかよく分からん部分があるんですが。

5ページを見た時にまず自然と、岸本小学校では子どものちょっと特色なんかがあれば気になるところです。今日は提言もいただいて、また色々皆さんのご意見もいただきましたので、これを参考にもしながら、また市長部局の方でも検討したいと思

ます。色んな地域づくり等関係する部署とも、また第三者と言いますか、庁外の方を交えたような第三者機関からご意見をいただくというようなことも考えていきたいと思っております。そんなことを、市長部局としても今後早急にそんな会を作りたいと思います。

○安岡教育長

学級数が複式学級になった場合、学級数が減ります。通常の学級数によって、教員の配置が決まります。状況によっては養護教諭とか、教頭の配置とかいったことにも影響があるわけです。高知県にもたくさん複式学級があります。それは、メリット・デメリットもございまして、先程から言っているように。ただ、多くの学校がその複式を解消したいという気持ちだと思います。なぜか。

例えば理科、2つの学年が同じ部屋で実験するというと、これは難しい。片方は実験し、片方は話さんといかん。ですから、よく理科の授業には教頭が入って別々にするとか、あるいは教頭が学級担任をしながら教頭事務をする。そして、複式学級を解消するといったような様々な取り組みが行われているわけです。

一方、通常学級の中でも最近学力の二極化といったことがありまして、そうした学力の高い子どもと苦手な子どもと、その子を両方を1つの学級として力をつけていくためには、複式的な考え方を持った授業姿勢でなければいけないという視点もございまして。

けれども、この提言の方にも書かせていただきましたが、この特認校制度を導入したのは、これはもう合併前の話なんですけれども、やっぱり複式学級を解消したいという気持ちの中からこの特認校制度が持ち込まれているというのは、事実だと思います。

その中で先生方が懸命に頑張っておられますけれども、来年から複式が2学級になりますので、教員が減ります。減った時に、先生方も病気になることがあります。あるいは義務的な研修等もございまして。あるいは複式学級についてさらに研修をせないかんという気持ちもございまして、そうした場合に出張あるいは年休が重なった場合は、教頭も校長も学級に入らんといかんというような状況の中で、職員室は誰もいないといったような形。そうした教員が減るといったようなデメリットもございまして。

なお、来年度につきましては、香我美中学校区、香我美小学校、岸本小学校で県の指定を1つ取りまして、加配教員が2名配置されます。そういう中で香我美小学校に入った先生が岸本小学校にも行く、香我美中学校へも行く。それで、香我美中学校に入った先生が香我美小学校へも岸本小学校へも行くことができます。週5日の中で2日間は岸本小学校へ誰か先生が入っていただけるというような状況を何とか生み出してきております。

ただ、教員が減るといったことは大きなデメリットになろうかと思っておりますので、それをちょっと付け加えておきたいと思っております。

○清藤市長

教育長、教職員の多忙化があるじゃないですか、この間も議会でも出てましたけれども。これなんかは、複式の場合どうなんですか。

○安岡教育長

複式の場合は、その学級担任が2学年分の教材の準備をしなければならない、試験の準備をしなければならないという、そういう多忙さがあります。夜遅くまで準備をされておるといったようなことも教員の中でも出ておりました。

○小松総務課長

岸本小学校の議題につきましては、今の段階で市長のお考えをお示しするという段階ではないと思います。教育委員会の方で、これまでの結果を踏まえて提言をされたということでございまして、今日はその提言の中身とか委員さんの想いを聞かせていただきまして、市長がこれから判断をしていくということになるかと思います。

お構いなければ、議題1の方はこれで閉じたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○小松総務課長

それでは議題2に移りたいと思います。

「香南市教育振興基本計画の中間見直しについて」です。これにつきましては、教育長からお願いします。

○安岡教育長

昨日もこの教育基本計画の進捗状況等あるいは評価等について、香南市教育振興基本計画推進協議会というのを開催いたしました。

この基本計画が10年間の基本計画でございますので、中間にあたります来年が中間見直しとなります。中間見直しですから、大きく根幹が変わるというわけではないと思いますけれども、社会情勢等も踏まえて付け加えなければならないものがあり、あるいはこのところがもう少し重点的に取り組まなければならないんじゃないかというようなことがきっと出てくると思います。これは、来年の基本計画の推進協議会がこの中間見直しを行っていくわけですがけれども、この来年の中間見直しに向けて、市長もこれまで言ってこられた中でお気づきの点なんかがありましたら、それをこの会議の方につなげていきたいという気持ちです。

ですから、これまでの教育の中でお考えになられたことで、ぜひこのことを考えていただきたいということがございましたら、お話いただけましたらと思います。

○清藤市長

広報の一番最後のページに市長談話室というのがあるんですが、これを3ヶ月分、3枚コピーしたものがお手元にあると思います。

要は、いつも自分が色んなこと言っている「シチズンシップ」ということなんです。これは、各人が今の社会や特に地域社会の中でどんな関わりを持ったりとか、ど

んな影響力を持ったり、行使したりとか、そういうことがどんなことができるかとか、その地域の中で自分の立場、立ち位置がどうなのかとか、こんなことを考えたり、行動したりするその力の総称を、これを「シチズンシップ」とか「シチズンリテラシー」と言います。

例えば、今、ピーター・ドラッカーという方がおります。有名な方ですが、NPO 団体を色々活動している人は虎の巻にしているピーター・ドラッカーの本というのが多くございます。彼はアメリカ人ですが、アメリカでは自分の仕事プラス余暇の時間に地域とかで何をするか、地域と言うか、興味のあることなんですけど、それがステータスの1つとなっていると。今は大統領選挙があつたりします。こんな中で日本人はあまり馴染みませんが、各自献金をして、自分はこういうことでこういうことで、こういう考えだからこの人を応援するということも、これは会社勤めの人の余暇の過ごし方であつて、そんなことがあつたり、ボランティアがあつたりするわけです。何をするかということも、1つはその人のステータスということが実はアメリカの国の特徴的なところなんです。そんなこととか、特に子ども達に「シチズンシップ」と言うか、そんな興味を持ってもらうことを何とか考えられないかというようなことが以前の自分の考えてございます。

私、2年半前にたばこを止めたんですけど、吸っていたら今1箱430円します。今年490円に上がります。このうちのいくらが税金なのか、そのうちのいくらが香南市へ入るのか。大体2億円くらい毎年香南市に入りますが。これは地方税ですから自由に使えるお金でございます。これを「じゃあどんなに使っているんだろう」、「たばこ税はこうだから他も含めて香南市の予算はどれくらいあるんだろう」、「どんなことで使っているんだろう」、「市の職員はどんなことをしているんだろう」、「市議会議員さんはどんなことをしているんだろう」、「市長はどんな仕事をしているんだろうか」、「もっとこんなお金の使い方がるんではないか」、「そんなことを聞いてみよう、調べてみよう」と。あとは「政策提案をしてみよう」。そういうことから、地方自治に興味を持ってもらえるイコール自分の住む地域に興味を持つというふうになっていきます。

高知県でも9年前からキャリア教育にすごく力を入れてきまして、色々なキャリア教育という名前が色々書物に載っていると思いますが、当初は1日、2日の体験入社とかいうようなことだけでございましたけれども、そうじゃなしに将来こんな仕事をするために自分は今何をしなければいけないとか、その仕事、職種、その業界の今の状況はどうか、今後はどうか、そこへ十分自分が身を置いてやっていけるんだろうか、やっていけないとしたら何が足りないのか、だから足りないところを今勉強しなければならぬというのがキャリア教育でございます。

そんなことなんかも、全て自分の社会での立ち位置はどうか、どんな影響力が今後持てるだろうかというような、そんな総称。ですから、今教育委員会の方でやっている規範意識や自尊心、またコミュニケーション能力を高めることも、これも「シチズンシップ」の1つでございます。そういうことと地方自治に非常にもっと関連するようなことを色々広めていくというような推進していくと。

ぜひそんなことを委員の皆さんの中でまた協議していただいて、ぜひそんなことが香南市は特に反映していけたらいいんではないかというふうに、それはまあ自分の考

え方なんです、ぜひ協議の中で加えていただけたらと思います。

以上でございます。

○安岡教育長

シチズンシップ教育、これは権利と義務の関係もございますけれども、社会に積極的に貢献していこうと、そういう態度を子ども達に養っていこうという教育だろうと思うんですけれども。本年度初めてやりましたこども議会。これなんかも非常に有効であろうと思いますので。これをどうしていいものか。市長さんとの雑談の中では、来年からも続けてやっていくべきではないかといった話があったんですけれども。

教育委員の皆さんは、シチズンシップ教育でもそれに関わったこども議会あるいはキャリア教育、またボランティア活動等何でもかまいませんので、何かちょっとご意見をお願いします。せっかく市長さんに言っていただきましたので。

○山本委員

私は今、城山高校に少しかかわっていますがここにあげております選挙権といったことに高校生は直面しております。私は、高校教育ということに以前は携わっておりました。高校教育は社会につながっております、この年代にある者が、選挙権ができるといったことで、やはり今までどおりの学校生活ではなしに、社会に目を向けながら生活していく必要性を感じますね。来年度卒業していく子ども達は特に選挙権ができ、選挙に参加するということ。また、そういった社会を、一方で学びながら、見ながら勉強していくということも必要です。

先程こども議会といったようなことに関連で、今までの我々の過ごしてきた社会を考えた時に、やはりもう少し早い段階からこの実社会に目を向けながら育ていくといったような環境を整えて行くことも必要と思います。

○大谷委員

私もこども議会はすごく有意義だったなと思っています。子ども達が自分の住んでいる所について色々調べて、みんなで話し合っ、それを本当にこう、臆することなくみんなの前で堂々と発表して、そういう姿を見て非常に頼もしかったです。それが今回限りでなくて、毎年続けられていったら、本当にすごく香南市の未来が開けるんじゃないかなというふうに思いました。

特に選挙権が18歳からになりましたけど、実際のところ、私には二十歳の子どもが1人、23になる子が1人、この3月に18になる子が1人いるんですね。選挙、分かっているのかなって、恥ずかしながら。たぶんあの子達きっと行かないと思うんですよね。「選挙の投票率が低いから何とか若者を」って急にそんなこと言われて、「子ども達、選挙権あげるよ」って言われても、実際に子ども達にしたら「えー、選挙のことらあ分からんし」っていうような、そういう状況なんですね。

やっぱりそこへ向かわせるとか、それまでに子ども達をきちんと教育していく。あなた達はいつか社会に出て、この社会を担っていくんだよっていうことをしっかりと教えていくということは、学校だけでなく、家庭の会話の中でも必要なことだと思

います。

今ニュースをすぐ見ることができるし、全世界のことが知ることができるので、どこにいても携帯があるのでこんなことがあるって。今はもう1番下の子しかおりませんので、1番下の子とそんな話をするんですけれども。やっぱりそういった意味で家庭と学校が1つになって、子ども達の目を、偏差値ばかりじゃなくて、会話の中で社会に目を向けさせる、そういう意識が大人にも必要なんじゃないかなと。そういう意識を持って子ども達を育てていく。キャリア教育もそうですけれども、実際に体を動かして、社会に出て、地域の人とつながって、やっぱりそういう中で地元を愛する気持ちも生まれてくるだろうし、未来に希望を持てるかもしれない。そういう意味ではすごくこども議会は良かったです。

○安岡教育長

先程言いましたように、昨日基本計画の推進協議会があり、その中の委員さんから社会の一員として自分達としてできることは何だろうという形で、学校の清掃活動であったり、あるいは吉川の海岸の堤防へ絵を描いたり、ゴミを拾ったりといったような形も出ていました。あるいはエコ活動なんかも、この間山田の森林センターでたくさん学校の集めて発表会がありました。様々な形で市民の1人である自覚を持ちながら、自分たちが社会に貢献していくことができる。昨日の委員さんの言葉をそのまま言いますと、「自分たちは今まで中学3年まで一生懸命育ててきてもらうたき、今度はもう自分たちが社会に恩返し」という言葉やったと思いますが、社会に貢献したいというようなお話非常に嬉しかったと委員さんからの意見がございました。やっぱりその中で香南市の一員としての自覚、それから香南市外に住む場合もあると思いますが、そうした場合も市民の一人としてどう生きていくのか、あるいは自分の知識や技能をどう社会に貢献していくのかといったような形も大事なキャリア教育の1つだと思います。そうした形で「シチズンシップ」を教育の中に入れていきたいと思っています。

○清藤市長

こども議会はみんな堂々として、緊張せんのかなと思いました。

○清藤教育委員長

こども議会のことで、私も非常に良かったなと思ったのは、選ばれてきた子ども達が自分の意見だけじゃなしに、自分の周りの友達とか、同じ学年の方の意見を取り入れて発表されたのが割と多かったように思うので、そこらへんが非常に良かったと思います。

○清藤市長

それとあれ、打ち返しみたいなのはやっていますかね。答弁は答弁でしたけど。

○野中副市長

やっています。

○清藤教育委員長

それと、こども議会じゃないですけど、委員会の今の取り組みですが、この統廃合のことで教育環境の整備があります。去年の岸本の合併の時にも「岸本だけかや」、「吉川も他にもあるろうがえ」という話も出てきよりますし、香南市全体の学校の教育環境の整備ということで、学校区の問題とかそんなことも前々からずっと取り組んではおりますけど、もうちょっと推進していかんといかんと思います。

そして、最近特に思うのは一般の教養と言いますか、日常生活の常識というか、そんなもんが結構抜けているということで、そこらへんも子どもに教育をせないかんということです。

例えばシートベルト。よく幼稚園訪問なんかで見て、保育園の先生に「先生、朝の送り迎えにシートベルトしてない子どもがいっぱいおるで。ちょっと気をつけちよつてや」と声をかけることがあるんですけど、親がそういうことをちゃんとやっていて、子どもに見せていかないかん。

この間のバスの転落事故で何人か亡くなって、その時に教育評論家の尾木さんが「うちの受講生が何人もおった」と言っておりましたが、実際あの場合、大学生あたりやったら高速道路を走ちゅうわけやき、シートベルトをしちよかないかんわけですよ。命を大事にしよう、そのへんが子ども達に伝わってなかったなという気がしています。普段から、子どもの時から自分の身を守るということを教えていかんといかんと思います。

それともう一つ、地震のこと。今も津波ばかり言いゆういうて、地震の時もやっぱり我々も気をつけていかないかん。例えば昼間地震があつたらすぐ一時避難所へ避難するというような行動を普段からしておかんといかんと思うがです。「あ、揺れたな。かなり揺れたな」で終わりよつたらいかんわけです。その時は、訓練やなしに本番でございまして。後の津波のことを考えたらやっぱり警報が出る前に一度は一時避難所の、学校やったらグラウンドに出るとかいうような行動を普段から取り組んでいかないかんじゃないろうかというように気がしております。一時避難所に避難してから、警報が出たら出たで次の行動がとれるし、別に出なかつたら、それはそのまま戻つたらえい。なかなか授業中であつたら、抵抗がありますけど、やっぱりそれは普段からのそういうクセをつけておらんと。

○清藤市長

自分はいつも言いゆうですけど、練習でできんことは本番でできませんのでね。年に複数回かなんか避難訓練をやりゆうですよ。

○清藤教育委員長

訓練はやりよります。火災の訓練とか地震とか、津波に対してもたぶん幼稚園もして。学校も。

○安岡教育長

保育園・幼稚園は月1回ですか。

○長野こども課長

色んなパターンでしています。

○安岡教育長

小規模校は、年に2回とかそんなもんじゃなくてなんべんもやっております。香我美小学校と保育園、幼稚園合同の何らかの災害の後の保護者への引き渡し訓練をしましたが、これも各地でやっていますし、登下校時における災害発生の際の避難とか。慌ててやったら交通事故になりますので、タイミングが難しいけれども。

正直に言って、まだまだ温度差はあります。海岸ぶちの所は非常に熱心にやっておりますけれども、若干意識の差はありますのでどこもこれから高めていかないかなというように思います。たくさんありますよね、不審者が来たらどうするかとか様々なことがありますので。現在は、ほとんどが火事とか地震とかの避難訓練が多いですけど。

○清藤市長

避難タワーもかなりできましたので、それらも利用してやっておると思うんですけど。

○安岡教育長

吉川は、先日やってみましたね。

○清藤市長

それと、シートベルトとかは何かこう、警察ともちょっと話してパンフレットと言いますか、そんなのを半年に1回は学校等でも配布したらえいですよね。口やかましく言わんといかん。助手席でせんかったら、それで運転者が違反になりますので、そう思って、自分らあも言ってますけど。身の安全を守るというのもあるし、そういうこともあるし、やっぱり習性をつけるようにせんといかんと思います。何かちょっとパンフレットの的な物も作ったらいいですね。ちょっとまた香南警察署とも話してみます。

○清藤教育委員長

自転車のマナーが悪いこと。それに結構無灯火や、電気がつかんとかいうような子もいます。

○安岡教育長

今、教育委員長が出されたのはこの教育振興基本計画の中にあります「安全な教育環境の推進」、ここに関わってのご意見だと思います。

この基本計画には5つのことが載っておりますけれども、「子どもに夢、青年に希望 高齢者に生きがい」、これが基本理念。その中に基本目標として、保育・幼稚園から小中学校、そして生涯学習という幅広い内容が全部これに入っておりますが、これを来年度中間見直しをやっていかないかと思っております。

今日のこの次の議題にもありますが、昨日、中間見直しをしていくにあたって、うちのアドバイザーをやっていただいております中村教授の方から出されました件として、評価というのをきちんと皆が共通理解して、この点は確かに成果があったと。評価のやりっ放しじゃなしに、評価をきちんとみんなで共有しあっていくというのが大切じゃないかなというようなご意見もいただいておりますので、ぜひ来年いかしていきたいなと思っております。

○小松総務課長

他にこの件に関してご意見はございますでしょうか。

(意見なし)

○小松総務課長

ないようでしたら、今、この教育振興基本計画をうちの教育大綱ということで位置付けをしていますので、その見直しに当たりましては、この会議で意見交換をしてみたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、次の議題に移りたいと思います。その他の件でございますが、先程教育長が言われておりました評価ですか。27年度の教育委員会の自己点検外部評価の議題でよろしいですか。

それにつきまして、次長の方から説明をお願いします。

○田内教育次長

平成27年度の教育委員会自己点検・外部評価報告書を今作成中ですが、中間報告という形で進めさせていただきます。

この報告書は、1ページに書いておりますが、地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、全ての教育委員会が毎年その権限に属する事務の管理及び点検状況について、点検評価を実施するものでございます。

基礎点検の項目につきましては3ページ、4ページにございます大項目、中項目ごとの自己点検評価と評価委員による評価をいただくようになっておりまして、今現在評価委員であります高知工科大学の中村教授に依頼しております。まだ点数はいただいておりますけれども、全体的な意見についていただいておりますので、それについて説明させていただきます。

5ページ、6ページに総括という形でたくさんの意見をいただいておりますけれども、ポイントを絞って報告させていただきます。

4点の指摘をいただいておりますが、まず第1点目は1)の真ん中の後段からになりますけど、「数値の検討はまだまだ改善の余地があるし、統計的に各学校レベルでのデータで、科学的に把握できるレベルにはもう少し努力が必要である。その3行くらい下、特に子どもの実態が質的に改善されているデータを命じることができるような努力が求

められている」という指摘と、2点目は、「学校教育に比較して生涯学習の分野においては具体的な政策目的、目標の設定が遅れ気味であるということと、推進体制の整ってからの具体的な実施や進展が待たれるというところである。特に数値目標や地域格差の解消すべき課題が昨年同様に残っている」。3点目としまして、これについては学校等の教職員の年齢構成や経験のバランスですけど、「年齢及び経験等のバランスにアンバランスが見られるということで、香南市だけの問題ではないが、教育委員会は現場の課題状況に応じて全体配置を科学的に分析する必要がある」という指摘をいただいております。

4点目としまして、評価の仕方ですけど、「いずれの教育委員会も自らの活動実態に応じて評価項目を設定し、その項目に応じて評価をしている。このことを政策面に応じた評価に変更することが必要であると。政策ごとに評価を行い、必要に応じて教育委員会の活動内容を変化させていくべきである。この点を改善すべき余地があろう。加えて経年比較の比較も入れるべきであろう。単年度では評価が難しい課題もあり、1年単位では功を奏していなくても、5年ごとの中期目標や、10年ごとの長期目標値としては達成しつつあるかもしれない。このような評価は教育振興基本計画が定まってしっかり実施体制を取っている香南市にこそ適用すべきである」という将来的な指摘をいただいております。

各個別項目では、11ページに教育委員会の活動に対する意見ということで、最後から4行目くらいからですけど、「今後は委員会の活動を政策実施項目に添って評価することが望ましい。またこれらの項目はデータに添って評価が行われることと、政策実施目標によっては経年評価を入れることもあわせて考慮されたい」という指摘を受けております。

15ページ、ここは教育委員会が管理、執行する事務に対する意見をいただいております。ここも中段くらいからですけど、「政策項目でも詳細な数値による評価をもう少し綿密に推進する余地が残されている。委員会活動に添って行われている事項分類を政策実施と経年及び単年度目標値に沿って組み替えることを今後検討すべきであろう」。同じような指摘でございます。

26ページの管理執行を教育長に委任する事務に対する意見のうち、生きる力をはぐくむ就学前・学校教育の推進についてですけれども、ここは何点かに分かれていますので、説明させていただきます。

「実質的データがあまり取られていないのでこの点は克服すべき課題がある。質的データの収集に独自の予算をつけて独自の政策課題をより具体的に実行に移すことを期待したい」ということと、「量及び質の面でデータの作成過程に実質的に移ること」と、「評価を政策実施項目ごとに行い、経年比較を取り入れられるよう改善すべき課題」と、この2点を指摘いただいております。これにつきましても、同じような形で政策的な評価とあと質及び量のデータの蓄積というのをしたいと思っています。

最後の31ページ、これは生き生きと学ぶ生涯学習の推進ということですけども、これにつきましては「香南市の生涯学習関係の政策立案には数値の評価が圧倒的に欠けている。これでは客観的な評価が行いにくいし、また経年比較をする場合に現状はがどの点までの達成度か理解しにくい」という指摘と、「最重要課題は生涯学習を推進

する母体となるべき人々の組織化ができていない」という指摘を受けております。この指摘事項につきましては、先程議題にあがってございました香南市教育振興基本計画の中にも反映させてまいりたいと考えておりますし、またこの報告書自体も現在作成中でございますが、できましたら教育委員会の方に諮りまして、その後議会へも報告し、またホームページ等での公表をいたします。

以上です。

○小松総務課長

ありがとうございました。これについては、報告ということによろしいですか。市長の意見を求めるものではないですか。

○安岡教育長

まだ中間的なものですので、報告です。

○清藤市長

平成20年度からかせないかんということになって、まず高知県教育委員会から始めました。その時から、工科大学の那須さんがやっておりましたけれども。その時に成果と言いますか、アウトカムとかいうか、それが最初全然なかったんです。色んな授業をやって、それでどんな予算を使って、生徒がどれくらい参加したとか、それで全て終わっちゃったんで。じゃあこうなったから、次の年度の予算の査定とか、財政に訴えるようなものがなかった。これをやったからこうなって、こういう成果が出たから良かったと。だから来年もっとしたいとか、増やしたいとかいうようなトークができるものがなかったということです。

それから、教育委員会やけど、主はPDCAとか色々やりよったら行政の内部の施策も本当はやっていったらえいけど、それをしていきよったらそれが仕事になって、それで1年終わってしまうという感じになるので、やってないですが。

だから、各課が財政と話す時のような、こういうことをやって効果があったから来年ぜひしたいと。これはあまり効果がなかったから、あんまりやってもどうとかいうことです。そんな取り組みをやったらもっとやりやすくなるというか、この考え方で。

これ、成果で載っちゃうでしょう。最初県がやるのも、これ成果じゃなかったんですよ。産業振興計画も地域アクションプランもなかったんです。けど、やったがために、どんな成果があるのかそれが客観的なものなのか抽象的でも良いですけど、数字が載る場合もあれば、そうじゃない場合もあるだろうし、それを利用した人の意見とかいうような場合の評価もあるだろうし、それが数値になる場合もあるでしょうけど。それがより分かりやすいようになったらもっと良いということですよ。

○田内教育次長

実は、去年の報告まではこの成果がございませんでした。今年初めて入れさせてもらいました。この報告書のあり方につきましては、中村教授の方の指導も受けまして、2～3年位かけまして、数値等も示しながら評価できる様、報告書自体も変えていっ

ております。

○清藤市長

中村さんは那須さんに指導を受けよう。そうなんですよ。

○小松総務課長

この件に関しましてはよろしいですかね。

(異議なし)

○小松総務課長

そしたらこの件につきましては、これで終わりたいと思います。その他の件で他に何かございますか。

(なし)

○小松総務課長

そうしましたら、事務局から1点。

次の会の日程でございますが、去年度は5月に開会して、その次は10月で、3回と。大体、3回程度を予定してございます。1回目の会議は去年どおり5月を目処でよろしいでしょうか。

(異議なし)

○小松総務課長

そうしましたら、来年度は5月を目処に準備をしたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

他にないようでしたらこれで会議を閉じたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

○小松総務課長

ありがとうございました。

○清藤市長

どうもお疲れ様でした。